

被害を受けた写真・アルバムに関して

すぐに洗浄できない場合の対処法

泥や砂混じりの水に浸かったアルバムや写真をそのまま放置すると、写真の周辺部などが赤や黄色、時には絵の具を溶かしたようになり、画像が流れてしまうことがあります。
(場合によっては、カビやバクテリアが繁殖してしまうこともあります)
またくつついてしまった透明ビニールや写真同士を無理に剥がそうとすると、画像だけ剥がれたり写真が破けたりします。



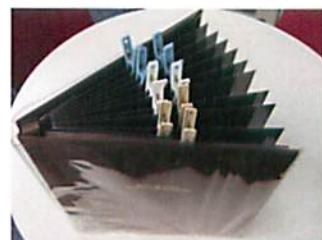
すぐに洗浄できない場合は乾燥させるだけでも劣化を抑えることができます。
かけがえのない大切な思い出を残すため、まずは濡れて湿ったアルバムごと写真をしっかり乾燥させてください。

【お願い】

作業には必ず薄手のゴム手袋を着用してください。
また作業終了後は、うがい・手洗いをしましょう。

【乾燥方法】

案① 洗濯ばさみを利用して、アルバムのページごとに
1ヶ はさみます。隣り合うページがくっつかないよう
工夫してセットしてください。



案② 古新聞紙などをページごとに差し込みまして、
合紙がわりに水分を吸わせます。時間が経過して、
ある程度水分を吸収した合紙は交換してください。



案③ アルバムを解体できましたら、
ページ1枚ずつに分けて陰干し乾燥を
おすすめします。



☆ 乾燥後、少しでも余裕ができましたら、
アルバムの透明ビニール上に付着した汚れを拭き
ページごとデジタルカメラで撮影するか
スキャナーで取り込むことをおすすめします。



水没した写真の洗浄方法などにつきましては、お近くの写真店にご相談や
当社ウェブサイトなどの説明を参照いただき、早めのご対応をお勧めいたします。

富士フイルム株式会社 写真救済プロジェクト

TEL 0120-166-557

(受付時間:月曜~金曜 9:30~17:00)

※土・日・祝日・夏季休業日を除く

ホームページ <http://fujifilm.jp/support/fukkoshien/>

被害を受けた写真・アルバムに関するご質問と対処法

その1、写真プリントが水没して汚れてしまった場合の対処法

震災において、お持ちの写真プリントや写真アルバムが水や泥をかぶってしまった方々などから、被災写真の対処法について数多くのお問い合わせをいたしております。
本資料にて、『銀写真プリント』に関する一般的な対処法を紹介いたします。ご参考にしてください。

なお、写真プリントの損傷状態によっては、画像面が剥がれて復元できなくなる場合があります。
特に長期間濡れたままになっていると、この傾向が強くなります。
従って本ページで紹介する対処法については、写真プリントの一部分を利用して、
まずはお試しいただくことをお勧めいたします。この点ご注意、ご了承ください。

また、この対処は暫定的なもので、このまま放置、保管されますと画像が変退色する恐れがあります。
落ち着いた時点でお店に相談され、対処された写真プリントやネガフィルムから、
改めて長期間きれいに保存できる、複製の写真プリントを作成いただくことをお勧めします。

※『銀写真プリント』とは、
写真用紙の上に、銀を含む化学薬品をゼラチンに溶かして塗布したものであり、
ネガフィルムなどを通して露光し、現像処理して得られる写真プリントのことです。
フィルム・デジカメ画像を写真店に依頼してプリントする、従来からの
『写真(銀塩方式)』プリントを示す呼称です。

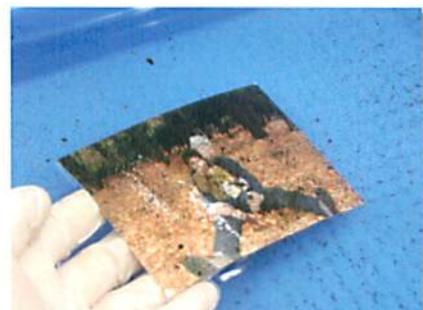
【お願い事項】

作業には必ず薄手のゴム手袋を着用してください。
介護・医療用か食品加工用の手袋がお勧めです。

- 写真プリントが完全に乾いている場合は、
先ず軟らかい筆やハケで表面の泥などを軽く落とします。
筆やハケが手元に無い、または写真プリントが生乾き
(もしくは濡れている)の場合は、直接2. から始めてください。



- 写真プリントを 水※ に
いったんくぐらせて、大きな汚れを落とします。
表面に傷がつくなるので強く擦るのは禁物です。



- 次に用意したきれいな水※ に写真プリントを浸します。

※ 水は約20°C~30°C、室温の水でも可

4. 写真プリントの表面を傷つけないようにして、
指の腹部分 もしくは 筆などを利用して、
水中で優しく撫でるように擦り、
泥や砂などをそっと落としていきます。



必ず四隅などの周囲から始め、
様子を見ながら主要被写体のある
中心部に移動して洗浄していきます。



裏面の汚れも忘れずに擦って落とします
(裏面の掃除は習字の筆などが便利で、
指よりも効率的に汚れを落とせます)。



※その際、写真プリントの画像面の一部分や周囲が
簡単に赤く、黄色く、更に白くなったりする場合は、
画像部分がかなり損傷してきています。
それ以上擦る作業は中止にします
(画像面の損傷がひどいものは、薄手のゴム手袋
越しでも、触ると微妙なヌメリを感じます)。
こうしたプリントの画像面は、軽くすすぐ程度の
洗浄にとどめてください。



5. 写真プリントの洗浄が終わったら、きれいな水(冷水でも可)で
すすぎ洗いをし、ほこりのつかない場所で陰干し乾燥します。
新聞紙などの上に広げても、洗濯バサミやクリップのような物で
端をつまんで、つるして乾かしても結構です。



ヘアドライヤーなどでの急激な乾燥は、写真プリントが反ってしまう
恐れがありお勧めできません。

(店名印)

被害を受けた写真・アルバムに関するご質問と対処法

その2、写真プリントがアルバムごと水没してしまった場合の対処法

Introduction

濡れてしまったアルバムをそのまま放置して乾かしてしまうと、中の写真プリントがくつついたり、変色してしまったりします。生乾きになっている写真プリントは、台紙やビニールから無理に剥がさず、次の手順で対応してください。なお泥などの汚れ落としは、写真プリントが水没して汚れてしまった場合の対処法に準じます。

【お願い事項】

作業には必ず薄手のゴム手袋を着用してください。
介護・医療用か食品加工用の手袋がお勧めです。

1. ポケットアルバムやフリー(フエル方式)アルバムは、入り込んだ水分の逃げ道が無いため、写真プリントが長期間濡れている状態だったことが予想されます。

その場合、写真プリントの画像面の周辺などが赤くなったり、黄色くなったり、更に白くなったりするなど、画像部分の損傷が進みつつあります。



特に絵の具を溶かしたような画像となっている場合は、水に浸けただけでも画像が流れてしまう危険性があります。



洗浄前に透明ビニールカバー上の汚れをぬぐい、ページごとデジタルカメラで撮影するかスキャナーで取り込むことをお勧めします。



2. 洗浄作業がしやすいように、
事前にアルバムのページをカット、
または分解して小さくできれば便利です。
(※カット時に裏面の写真を傷つけないよう
気をつけて下さい。)



きれいな水※ に、アルバム(もしくはその一部分)
またはアルバムからカット済みの
写真プリントを浸します。

※ 水は約20°C~30°C、室温の水でも可



3. 重なってくついたプリント同様に、透明ビニールカバーや
アルバム台紙などから、写真プリントに傷をつけないように
ゆっくり剥がしていき、取り出した写真プリントを軽く水ですすぎます。

特に損傷の大きい画像では、上のビニールを剥がすだけで
画像の一部が欠落することもあります。
この場合は、プリントを取り外すだけの作業となります。
必要以上に画像面を擦る、または強くすすぐことは禁物です。



4. 順次写真プリントを剥がせたら、きれいな水(冷水でも可)で
すすぎ洗いをし、ほこりのつかない場所で陰干し乾燥します。
新聞紙などの上に広げていっても、洗濯バサミやクリップなどで
端をつまんで、つるして乾かしても結構です。
ヘアドライヤーなどでの急激な乾燥は、写真プリントが反ってしまう
恐れがありお勧めできません。



(店名印)

被害を受けた写真・アルバムに関するご質問と対処法

その3、写真プリントが水没して何枚もくつついてしまった場合の対処法

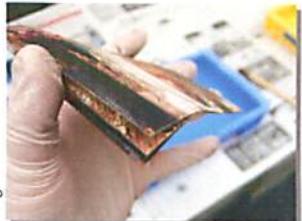
Introduction

くつついてしまった写真を無理に剥がそうとすると、

画像が剥がれたり写真が破れたりします。

次に説明する手順で対応してください。

なお汚れ落としは、[写真プリントが水没して汚れてしまった場合の対処法](#)に準じます。



【お願い事項】

作業には必ず薄手のゴム手袋を着用してください。

介護・医療用か食品加工用の手袋がお勧めです。

- きれいな水※に軽く洗浄済みの

写真プリントを浸します。

※水は約20°C~30°C、室温の水でも可

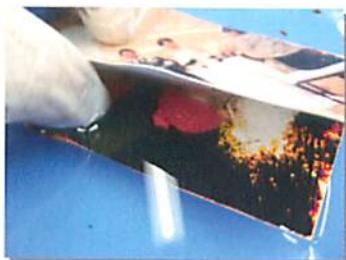


- 表面に出ている写真プリントに

傷を付けないように注意しながら、

重なった写真プリントを順番に

ゆっくり剥がしていきます。



- くつついている場所の隙間に

水を徐々に浸透させて、

気長に剥がしていくことが肝心です。



- 順次写真プリントを剥がせたら、きれいな水(冷水でも可)で

すすぎ洗いをし、ほこりのつかない場所で陰干し乾燥します。

新聞紙などの上に広げていっても、洗濯バサミやクリップなどで

端をつまんで、つるして乾かしても結構です。

ヘアドライヤーなどでの急激な乾燥は、写真プリントが反ってしまう恐れがありお勧めできません。



(店名印)

被害を受けた写真・アルバムに関するご質問と対処法

その4、カラーネガフィルムが水没して汚れてしまった場合の対処法

Introduction

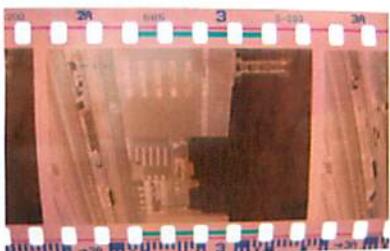
現像済みのネガフィルムが見つかった場合は、塩水や泥水を浸かっていても廃棄せずに回収してください。通常は樹脂製の半透明のネガシートに入って保管されており、損傷が少なければ、後日、簡単に写真プリントの作成が可能です。泥などの洗浄の仕方は写真プリントと、ほとんど同じ方法です。

【お願い事項】

作業には必ず薄手のゴム手袋を着用してください。
介護・医療用か食品加工用の手袋がお勧めです。

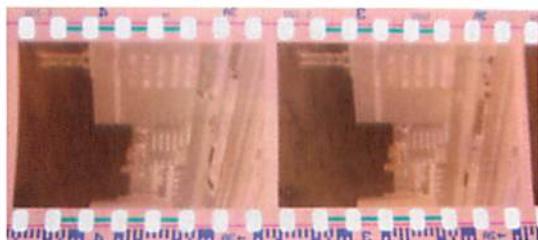
ベース面

(コマ番号が正しく見える方)



乳剤面

(コマ番号が鏡に映したように
反転されて見える方)



画像部分が傷んでいる場合、擦っただけで画像が剥がれてしまうといった損傷が予想されます。

乳剤面側の取り扱いには特に注意を払って下さい。

フィルムの両端部分をつまむか、ベース面側の穴のある部分に触れる程度の取り扱いにとどめて下さい。

1. ネガフィルムがシートごと完全に乾いている場合は、
軟らかい筆やハケでシートの表面の泥などを軽く落として下さい。
筆やハケが手元に無い、またはフィルムが生乾き
(もしくは濡れている)場合は、直接2. から始めて下さい。

※ ネガシートは細長い封筒状になっています。

そのため入り込んだ水の逃げ道が無く、

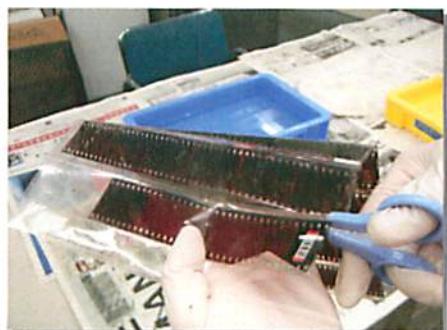
長期間 濡れた状態だったことが予想されます。

泥落としよりも、ネガシートからのフィルムの取り出し

(または、引き剥がし)対処が主な目的となります。

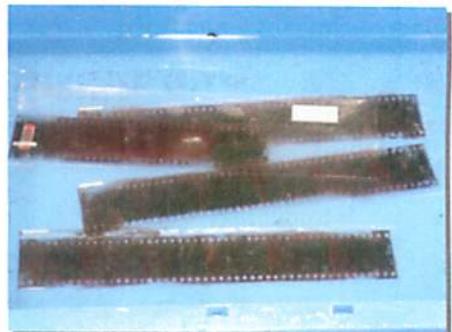
また、事前に1段1段ネガシートごとハサミで切ってから

水に浸けますと、後の作業が効率的に行えます。



2. フィルム、もしくはフィルム入りネガシートごと、
水※ にいったんくぐらせて大きな汚れを落とします。
表面に傷がつくので強く擦るのは禁物です。

※ 水は約20°C~30°C、室温の水でも可



3. 次に用意した綺麗な水に
フィルム入りネガシートやフィルムを浸します。

4. もしフィルムがネガシートとくついている場合は、
自然に剥がれるまでそのまま浸しておきます。
ベース面(コマ番号が正しく見える方)側の穴のある部分を
軽く押さえて慎重にネガシートの片面を引き剥がします。
くついている場合は、絶対に無理に引き剥がしたり
引き出したりしないようにします。

※ フィルム画像面の一部分や周囲が透けている場合は、
画像部分がかなり損傷してきています。
ネガシートを引き剥がしたら、フィルムを絶対に擦らず
端を持って軽くすすぐ程度で水から出してください。

フィルムの表面を傷つけないように、
フィルムの両端の穴のある部分などを持ち、
水の中でフィルムを揺らす程度の洗浄で結構です。



5. 洗浄が終わったら、きれいな水(冷水でも可)ですすぎ洗いをし、
ほこりのつかない場所で陰干し乾燥します。
フィルムの両端にある穴を利用して、
クリップを曲げてその穴に通して干します。
または洗濯バサミやクリップのような物で
端をつまんで、つるして乾かしても結構です。

ヘアドライヤーなどでの急激な乾燥は、
フィルムが反ってしまう恐れがありお勧めできません。



(店名印)